

令和6年度 特別展示

～埼玉県指定文化財記念～

東善寺の阿弥陀さま展

～ごあいさつ～

熊谷市代の東善寺は、山号を代島山と号し、御本尊を釈迦如来とする曹洞宗の寺院です。その開基は慶長13年(1608)に、原島三郎義治によるとされ、熊谷市上之の龍淵寺第13世の叱洞長牛を請い、開山したと伝えられます。慶安2年(1649)には徳川家光から寺領10石のご朱印を受領し、現在のご住職様で17世を数えます。江戸時代末期に江戸幕府によって編さんされた『新編武蔵風土記稿』には、ご本尊は阿弥陀如来とありますので、いつのころか現在の釈迦如来へと移り変わったと考えられます。

今回特別展示しております木造阿弥陀如来立像は、現在行われている熊谷市史編さん事業の、仏像・仏画悉皆調査によって発見されました。

平成29年11月に、市史編さん仏像・仏画専門部会の先生方が東善寺の調査を行ったところ、本堂奥の棚に安置されている状態でこの仏像を発見しました。そして、この仏像の様式が鎌倉時代に活躍した仏師・快慶の作品の特徴を色濃く持つことから、平成30年に東京国立博物館でX線CT撮影を行ったところ、胎内に古文書らしきものが納められていることがわかりました。その後、熊谷市立熊谷図書館で保管し、埼玉県文化財保護審議会の先生方の調査を経て、令和6年3月に埼玉県指定文化財となりました。

今回展は、その県指定記念の特別展示です。快慶作のいわゆる「三尺阿弥陀」と比べると小ぶりではありますが、螺髪(らふ)の刻みや目鼻立ち、着衣の衣紋表現などに共通点が見られ、現時点で、快慶本人はともかく、快慶の工房が制作に関与した可能性が高いと判断されております。

今後はお像に傷みがあるため、仏像・仏画専門部会の先生方、また快慶仏を研究している専門の先生方と協議しながら修復を行い、その過程で胎内の古文書を取りだし、引き続き調査を行う予定としております。もし、胎内の古文書から快慶、もしくは快慶工房作が判明すれば、県内初の作品となります。

修復前のこの機会にぜひ多くの方にご覧いただければと思います。また、この公開を通じて、熊谷の文化や文化財に関心・興味をお持ちいただき、後世へ伝えていくことの大切さを感じていただければ幸いです。

最後に今回展の開催にあたりご理解、ご協力を賜りました東善寺ご住職様を始め関係各位に厚くお礼申しあげ、開催のごあいさつといたします。



埼玉県指定文化財 木造阿弥陀如来立像

会期：令和6年7月2日(火)～9月1日(日)

[休館日：月曜日(祝日を除く)、7/5、7/16、8/2、8/13]

会場：熊谷市立熊谷図書館 3階 郷土資料展示室

時間：午前9時～午後5時

入場無料

主催：熊谷市立熊谷図書館

住所：熊谷市桜木町2-33-2

電話：048-525-4551